

1. 遣唐使 2. オランダ商館長 3. 琉球使節 4. 朝鮮通信使

1. 全ての人間は平等であり、実力主義を肯定する考え方 2. 海外との交易を推奨し、富国強兵を目指すべきだとする考え方 3. 迷信を否定し、実験や観察に基づく合理的な考え方 4. 上下関係や身分の秩序を厳格に守るべきだとする考え方

1. 幕府は異国船打払令に基づき、ラクスマンの乗る船を武力で撃退し、一切の交渉に応じなかった。

2. 幕府はラクスマンの要求を全面的に受け入れ、即座に根室と函館を開港してロシアとの貿易を開始した。

3. 幕府はロシアの要求に驚き、即座に老中の松平定信を根室に派遣して正式な国交を樹立した。

4. 幕府は根室での交渉を拒否したが、長崎への入港許可証である「信牌」を渡し、交渉の場を限定した。

1. キリスト教を国教として採用するために、国内の仏教勢力を抑え込んで貿易を円滑に進めるため	2. 貿易の利益を幕府が独占するとともに、キリスト教の教えが幕府の支配体制を揺るがすことを恐れたため	3. ヨーロッパ諸国との外交関係を完全に断絶し、自給自足の経済を確立して鎖国を完成させるため	4. 幕府の権威を高めるため、キリスト教の教えを政治の基本方針に取り入れようとしたため
--	--	--	---

1. 対馬藩 2. 長州藩 3. 松前藩 4. 薩摩藩

1. オランダ 2. イギリス 3. ポルトガル 4. スペイン

1. 富嶽三十六景 2. 東海道五十三次 3. 婦人相学十体 4. 見返り美人図

1. 朝鮮や中国との貿易を廃止し、オランダ一国のみとの独占的な外交関係を樹立するため
2. キリスト教の教義を正しく理解し、将来的に日本国内での布教を容認するための準備とするため
3. 一般の町人や農民にも広く海外の知識を普及させ、国全体で近代化を進めるため
4. 海外の情報を幕府が独占することで、民衆や藩閥による不測の動きを抑え、国内の統治を安定させるため

1. ペリーが浦賀に来航して開国を迫った際、幕府内に海防の準備が整っておらず、ひとまず時間を稼ぐ必要があったため。	2. 蛮社の獄によって渡辺華山ら開明的な学者が幕府の政策を批判したことにより、世論が開国へと大きく傾いたため。	3. 徳川吉宗が享保の改革において実学を奨励し、漢訳洋書の輸入制限を緩和したことで、外国の事情が一般に広く浸透したため。	4. アヘン戦争で清がイギリスに敗北したという情報を得て、強硬な態度を続けることで武力衝突を招くことを恐れたため。
---	---	--	---

1. キリスト教の布教を徹底的に排除しつつ、海外の物資や情報を管理・入手するため	2. 中国やオランダを通じて、東南アジア諸国へキリスト教を輸出するため	3. キリスト教を日本独自の宗教と融合させ、新たな国教として普及させるため	4. 鎖国によって海外との交流を完全に断絶し、日本の自給自足体制を完成させるため
--	-------------------------------------	---------------------------------------	--

1. 紀貫之 2. 松尾芭蕉 3. 伊能忠敬 4. 雪舟

1. 清との貿易は、中世の勘合貿易と同様の形式で、幕府が直接全ての船を派遣していた。
2. 幕府から朱印状を与えられた商人が、清や東南アジアとの間を往復して貿易を行った。
3. 出島でのオランダ貿易とともに、唐人屋敷などを通じて清との取引が行われた。
4. 中世から続く伝統的な形式を維持し、各地の港で自由な入港が認められていた。

1. 外国との貿易を拡大させるため、特定の商人に限定せず広く一般の農民にも商業を許可した。
2. 物価の高騰を抑えるために商人の結集を禁じ、市場における商品の流通を完全に国営化した。
3. 商人の自由な経済活動を促進するため、古い座の仕組みを廃止して自由競争を促した。
4. 商人に営業上の独占権を与える代わりに税を徴収し、幕府の財政を潤そうとした。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 朝鮮通信使	豊臣秀吉による朝鮮出兵の後、徳川家康は対馬藩の宗氏を仲介させて朝鮮との国交を回復させました。これ以降、将軍の就任祝いなどの目的で、朝鮮半島から「善隣友好」の証として使節団が派遣されるようになりました。使節団は江戸までの道中で日本の知識人と儒教を通じた文化交流を行うなど、大きな影響を与えました。
問2	答え 4 上下関係や身分の秩序を厳格に守るべきだとする考え方	朱子学は「君臣の別（主君と家臣の区別）」を説き、自分の身分に応じた役割を果たすことを道徳の基本としました。この思想は、将軍を頂点とした厳格な身分制度を維持したい幕府にとって、支配の正当性を裏付ける非常に強力な理論的根拠となりました。
問3	答え 4 幕府は根室での交渉を拒否したが、長崎への入港許可証である「信牌」を渡し、交渉の場を限定した。	幕府は鎖国を理由に根室での交渉を拒否しましたが、ロシアを過度に刺激することを避け、漂流民の受け取りと引き換えに長崎への入港許可証（信牌）を渡して、交渉を希望するなら長崎へ向かうよう伝えました。これを受けてロシア側は一旦引き上げましたが、後の1804年に再びレザノフが長崎へ来航することに繋がります。なお、異国船打払令はこの出来事よりも後の1825年に出されたものです。
問4	答え 2 貿易の利益を幕府が独占するとともに、キリスト教の教えが幕府の支配体制を揺るがすことを恐れたため	江戸幕府は、西国の大名が貿易によって経済的・軍事的に強大化することを警戒しました。また、キリスト教の「神の前では平等である」という教えや、信仰のために領主への忠誠を拒む可能性が、封建的な主従関係に基づく幕府の支配にとって脅威になると判断したことが背景にあります。
問5	答え 1 対馬藩	豊臣秀吉による朝鮮出兵で悪化した関係を修復するため、徳川家康は朝鮮との国交回復を急ぎました。地理的に朝鮮半島に近い対馬（現在の長崎県）を治めていた宗氏（対馬藩）が、幕府の命を受けて交渉の窓口となり、その後の外交実務や貿易を独占的に担うこととなりました。
問6	答え 3 ポルトガル	1543年に種子島へ鉄砲を伝えたのはポルトガル人であり、それ以降、日本との間で南蛮貿易が本格化しました。この貿易では中国産の生糸や鉄砲、火薬などが輸入され、日本からは銀が輸出されました。しかし、江戸幕府による禁教政策の強化にともない、1639年に同国の船の来航が禁止されたことで、約1世紀にわたる交流に終止符が打たれました。
問7	答え 1 富嶽三十六景	「富嶽三十六景」は、葛飾北斎が各地から見える富士山の景観を描いた46枚（当初は36枚の予定だった）からなる浮世絵のシリーズです。中でも、巨大な波頭と遠景の富士山を対比させた「神奈川冲浪裏」や、朝日に染まる富士を描いた「凱風快晴（赤富士）」は、大胆な構図とベロ藍（ブルシアンブルー）と呼ばれる鮮やかな青色の使用が特徴で、後にゴッホら西洋の画家にも大きな影響を与えました。
問8	答え 4 海外の情報を幕府が独占することで、民衆や諸藩による不測の動きを抑え、国内の統治を安定させるため	幕府は情報の独占を非常に重視していました。オランダ風説書を通じて、アヘン戦争のような海外の大きな争いや西洋諸国の動向をいち早く察知することで、外国船の来航に備えるとともに、幕府の権威を維持しようとした。これらの情報は機密扱いとされ、一般に公開されることはありませんでした。
問9	答え 4 アヘン戦争で清がイギリスに敗北したという情報を得て、強硬な態度を続けることで武力衝突を招くことを恐れたため。	江戸幕府は1825年に異国船打払令を出して外国船を排除していましたが、隣国の清がアヘン戦争（1840年～）でイギリスに大敗した二ニュースは大きな衝撃を与えました。強力な武力を持つ欧米列強と直接衝突することを避けるため、1842年に天保の薪水給与令を出し、漂着した外国船には薪や水、食料を与えて穏やかに帰すという柔軟な方針へと転換しました。ペリーの来航はこの11年後の出来事です。
問10	答え 1 キリスト教の布教を徹底的に排除しつつ、海外の物資や情報を管理・入手するため	幕府はキリスト教の布教を禁じる一方で、中国の産物である生糸や、西洋の学問・技術といった有用な物資や情報を必要としていました。そこで、布教を行わないことを条件に中国やオランダとの窓口を長崎に限定し、幕府の厳格な統制のもとで貿易を継続させました。これにより、禁教と実利の確保を両立させようとした。
問11	答え 2 松尾芭蕉	五代将軍徳川綱吉の時代を中心とする元禄文化では、新興の町人たちが文化の担い手となりました。この時期、松尾芭蕉は「正風（しょうふう）」と呼ばれる、精神性の高い芸術的な俳諧のスタイルを確立しました。選択肢にある雪舟は室町時代の水墨画家、伊能忠敬は江戸時代後期に日本地図を作成した人物、紀貫之は平安時代の歌人です。
問12	答え 3 出島でのオランダ貿易とともに、唐人屋敷などを通じて清との取引が行われた。	江戸時代、幕府は鎖国体制の下で、長崎でのみオランダおよび清（中国）との貿易を認めました。清の商人は、長崎に設置された「唐人屋敷」に居住して取引を行いました。朱印船貿易は、鎖国が完成する前の江戸時代初期に行われていたもので、管理された長崎貿易とは形態が異なります。また、中世の貿易とは時代背景が明確に区別されます。
問13	答え 4 商人に営業上の独占権を与える代わりに税を徴収し、幕府の財政を潤そうとした。	江戸時代中期、老中の田沼意次などは、商業の発展に伴う利益に注目しました。商人に「株仲間」を結成させ、その業種における独占販売の特権（権利）を認める代わりに、運上や冥加といった税を納めさせることで、幕府の財政難を改善しようと試みました。しかし、この仕組みは独占を許すため、後に物価高騰の原因の一つとして批判の対象にもなりました。